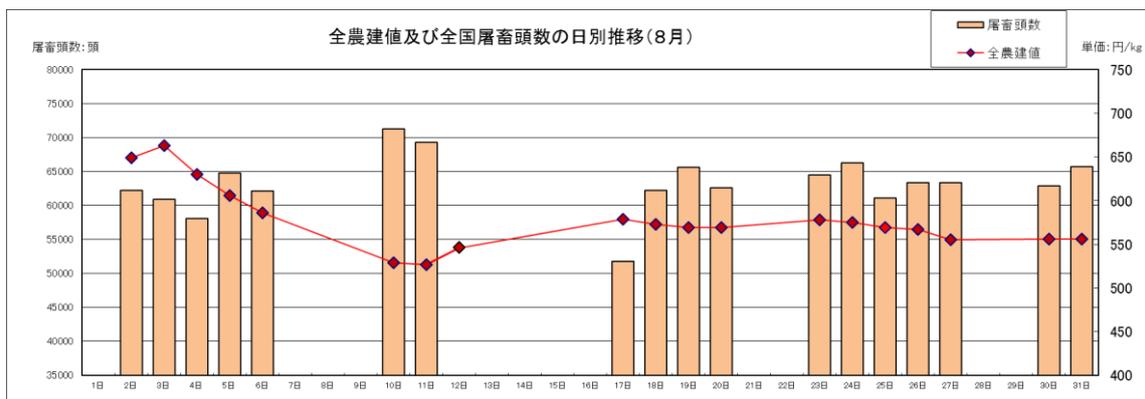


# 肉豚インフォメーション（8月）

## 【全農建値】

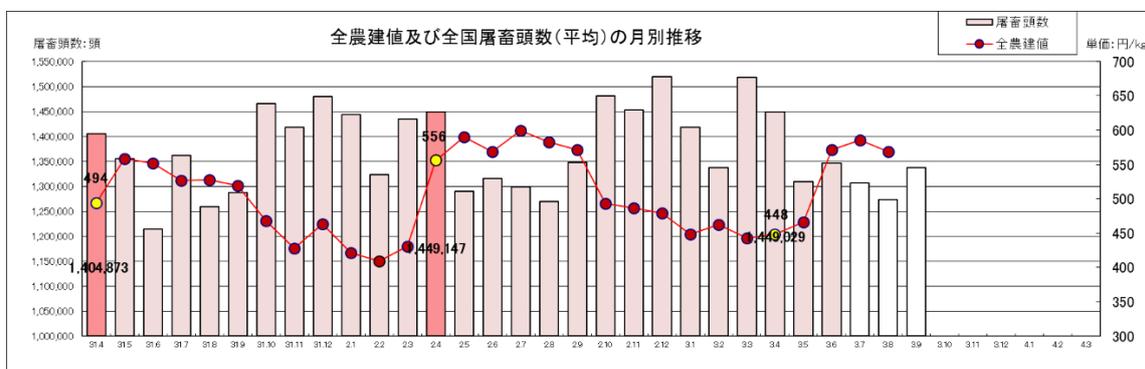
2021年8月（税抜）	2020年8月（税抜）
580円/kg（3円安）	583円/kg

8月は前月の流れを受けて高値でスタートしたものの、中旬にかけて盆休みに起因する出荷増や行楽需要が弱かったことから相場を大きく下げた。下旬は、緊急事態宣言の延長や拡大を受けて家庭内消費が強まり概ね560円を超える相場で推移した。

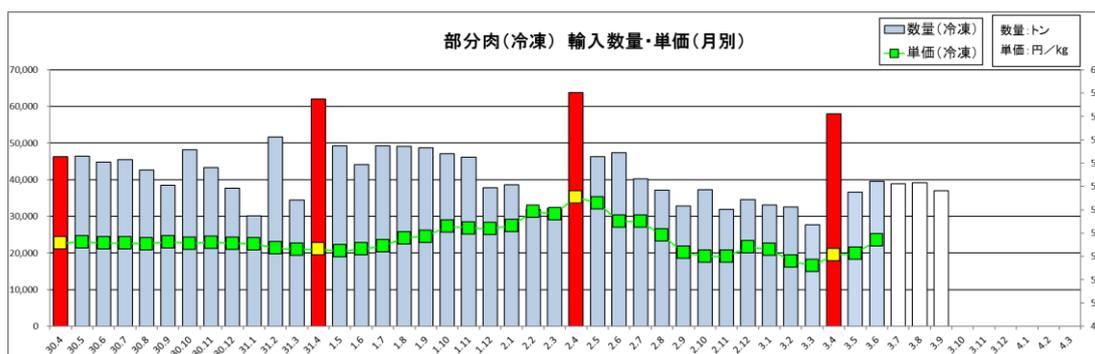
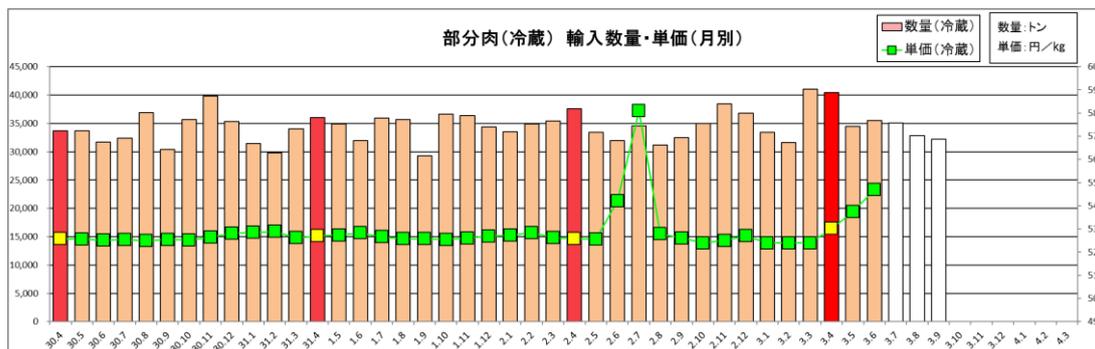


## 9月以降の動向

9月の出荷頭数は、前年同月をわずかに下回ると予測されている。



冷蔵品輸入量は、8月は、前年同月の輸入量が新型コロナウイルス感染症の影響で北米工場の従業員の作業効率が低下したことにより少なかったことから、前年同月をやや上回ると予測する。一方、9月は、北米における現地価格の高騰の影響等から、前年同月をわずかに下回ると予測する。なお、3カ月平均では、前年同期をわずかに上回ると予測する。冷凍品輸入量は、外食需要の減少に加え、アジア諸国を中心とした旺盛な買い付けや北米及びEU諸国の国内需要の増加による現地価格の高騰等が続いているものの、前年同月の輸入量が新型コロナウイルス感染症の影響で少なかったことから、8月はやや、9月はかなり大きく、いずれも前年同月を上回ると予測する。なお、3カ月平均でも、前年同期をやや上回ると予測する。(ALIC 豚肉の需給予測について 8月26日)



緊急事態宣言の延長や拡大に伴うテレワークの実施拡大等により家庭内消費が増加している。9月中下旬には連休が控えているが、BBQ や行楽需要への期待は薄く、引き続き家庭内消費中心となりそう。

また9月1日～15日頃まで暑さが和らぐ予報（東京）も出ていることから、屠畜頭数が増えることが予想される。

9月の相場は、屠畜頭数及び新型コロナウイルスの感染拡大の動向に大きく左右されそう。

一方で飼料情勢については、とうもろこしシカゴ定期が中国からの強い引き合いなどを受けて一時 730 セント／ブッシェル台まで高騰したが、米国産地での生育に適した天候が続いたことから下落し、540 セント／ブッシェル前後となっている。

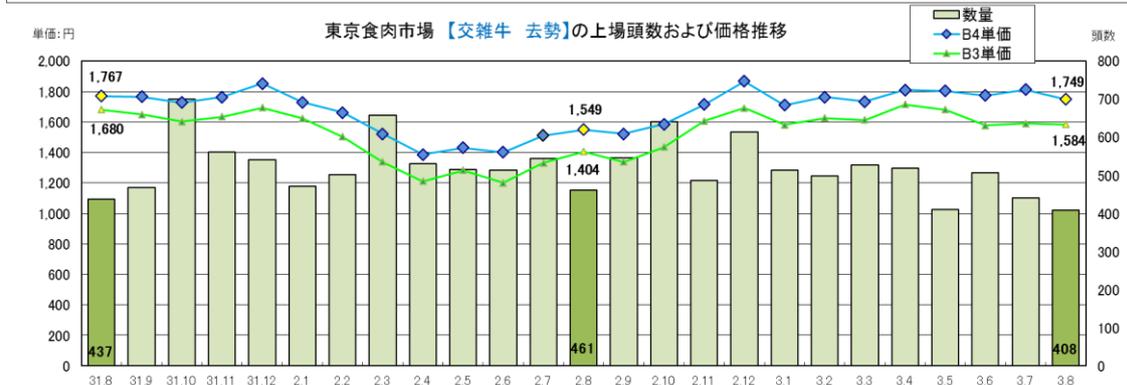
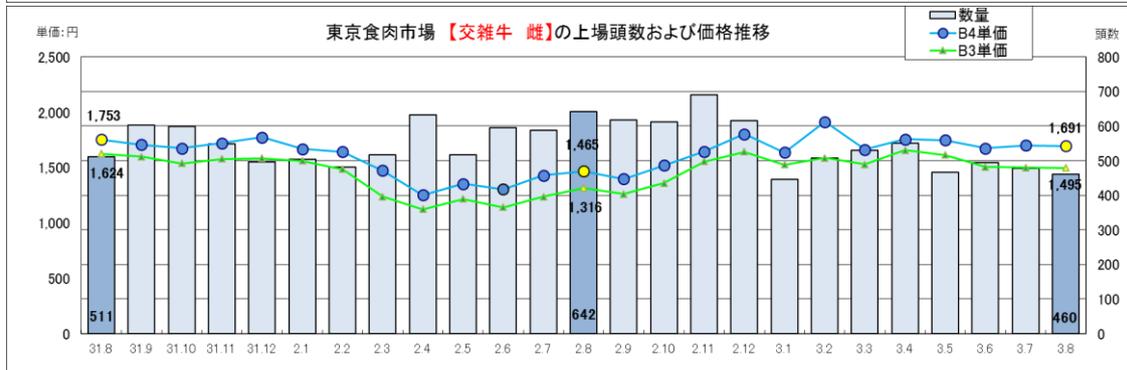
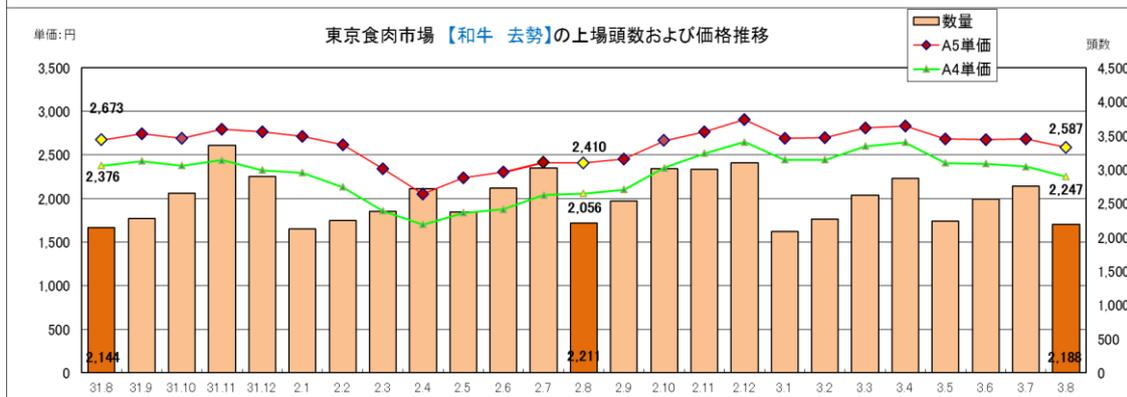
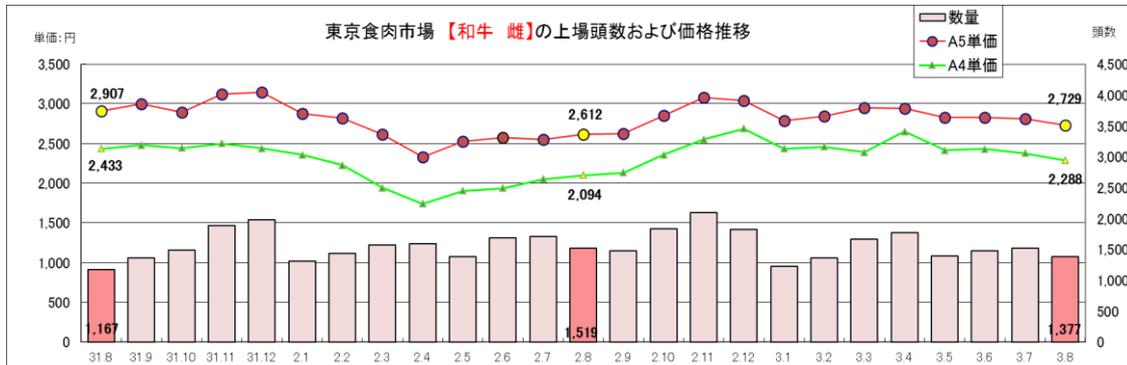
9月の相場は底堅く推移する見通し。

全農建値（税抜）予測レンジは 530 円～580 円とする。

# 肉牛インフォメーション（8月）

## ● 8月の動向

8月は緊急事態宣言等の影響もあり、外食や宿泊施設向けの需要が乏しく、牛枝肉相場は徐々に下がり、旧盆明けからは和牛4等級で100円程度、交雑牛2等級も50円程度下げる展開となった。



● 9月の動向予測

東京食肉市場上場予定頭数は6,800頭（前年対比▲7%）ほどを見込む。9月は量販店の秋シーズン向け商品の仕入れが活発化するが、緊急事態宣言がどれだけ続くかが大きく荷動きに影響するだろう。9月相場は「弱含み」の展開と予想。

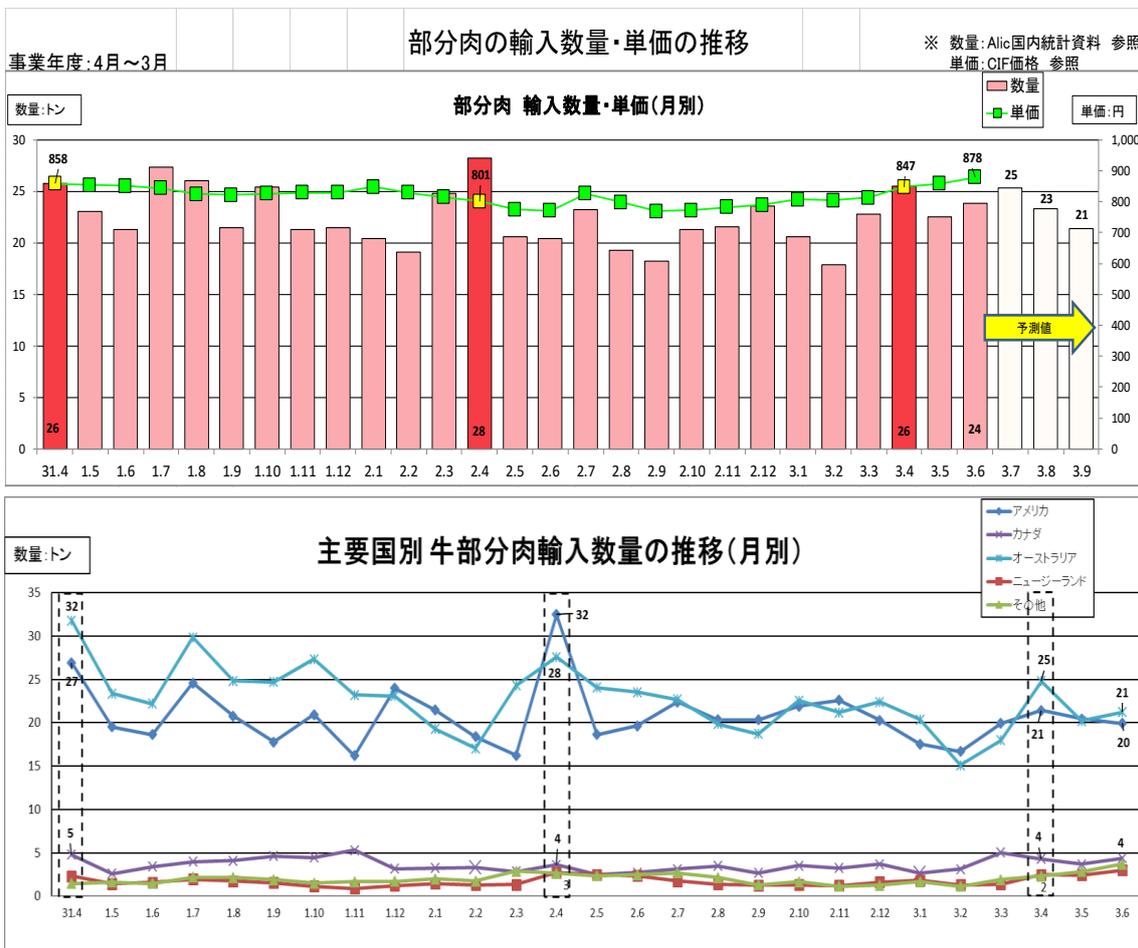
和牛去勢 A5等級 2,450円（税込み）      A4等級 2,100円（税込み）

交雑去勢 B4等級 1,700円（税込み）      B3等級 1,500円（税込み）

● 輸入牛肉

牛肉（部分肉）輸入量は、前年同月の輸入量が北米現地工場の作業効率の低下及び豪州の干ばつ後の牛群再構築による生産量減少に伴う現地価格の高騰等により少なかったことから、8月、9月ともに前年同月を大幅に上回ると予測する。なお、3カ月平均でも、前年同期をかなり大きく上回ると予測する。

（ALIC牛肉の需給予測について8月26日 抜粋）



● 消費動向

消費者の低価格志向と不安定な天気が続くことから、焼き材から切り落としなどのスライス商材へのシフトが早まるとの見方も。今後は動きの弱かったモモやウデの需要が出てくることも予想する。

●全農茨城県本部家畜市場動向

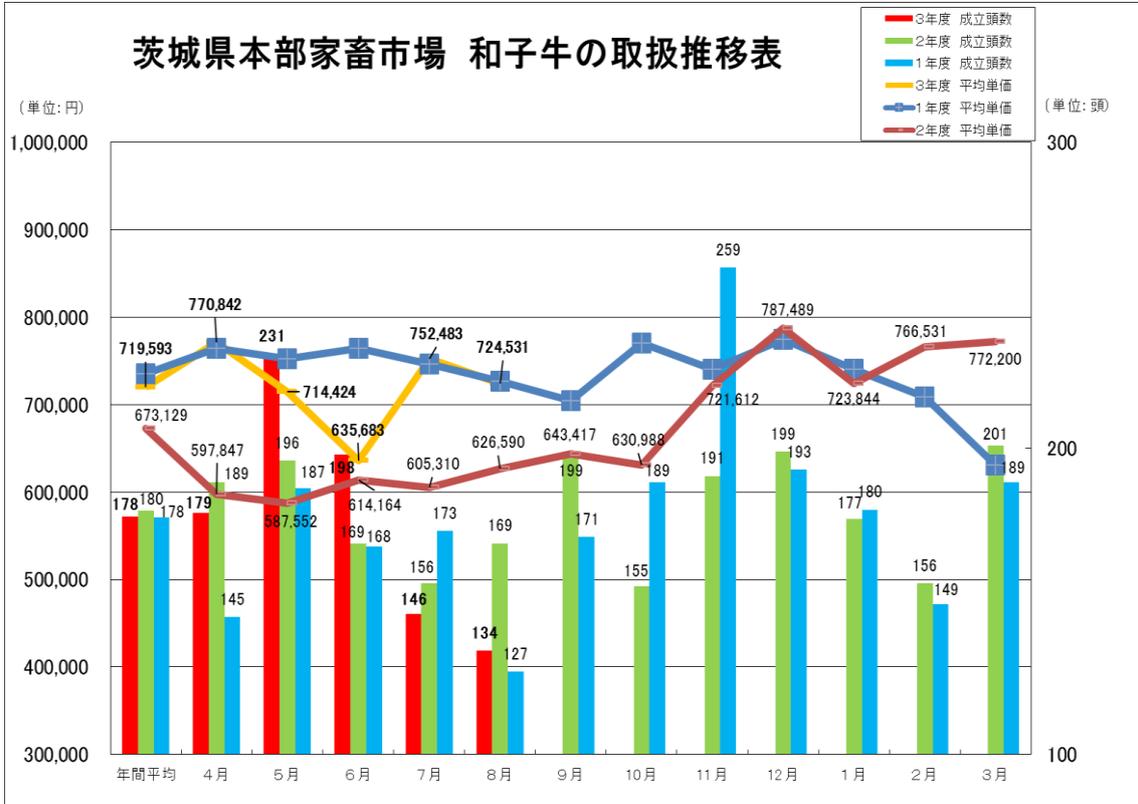
全農茨城県本部家畜市場における素牛平均価格（8月税込）は、黒毛和種の雌は605,318円で前月比▲63,482、去勢は783,500円で前月比▲22,578円となった。

上場頭数（成立）は134頭で前月比▲12頭。次回上場頭数は170頭を予定している。

全農茨城県本部家畜市場実績（和牛子牛）

（税込）

	年間平均	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1年度 平均単価	735,223	764,223	752,015	764,621	746,382	726,806	704,141	769,994	740,279	774,343	740,581	708,666	630,626
去勢	791,182	804,333	799,867	842,908	797,996	801,132	732,566	818,370	797,145	846,297	814,402	757,106	682,060
雌	659,697	707,400	675,585	684,447	680,659	631,348	657,786	702,635	661,359	682,919	639,563	633,657	559,009
2年度 平均単価	673,129	597,847	587,552	614,164	605,310	626,590	643,417	630,988	721,612	787,489	723,844	766,531	772,200
去勢	734,165	649,837	642,142	674,214	650,911	694,492	709,130	714,912	794,798	850,944	799,476	794,563	834,562
雌	598,275	513,364	510,047	545,753	561,990	550,285	562,199	552,310	635,950	707,450	630,022	724,591	685,339
3年度 平均単価	719,593	770,842	714,424	635,683	752,483	724,531							
去勢	779,347	835,115	780,016	692,025	806,078	783,500							
雌	629,894	694,811	609,771	570,768	668,800	605,318							
1年度 成立頭数	178	145	187	168	173	127	171	189	259	193	180	149	189
2年度 成立頭数	180	189	196	169	156	169	199	155	191	199	177	156	201
3年度 成立頭数	178	179	231	198	146	134							



# 食肉インフォメーション（8月）

日本フードサービス協会がまとめた外食産業市場調査7月度結果報告によると、「全体売上は対前年比102.1%だが、コロナ前の2019年比では86.3%に留まっている。」と前月同様の厳しい情勢報告となった。7月は「緊急事態宣言」または「まん延防止等重点措置」が沖縄、大阪、首都圏などに適用され、下旬には原則無観客五輪が始まり、持ち帰り需要が強みのファーストフードが外食全体を牽引した。一方、パブ・居酒屋業態は酒類提供の禁止あるいは時間制限が続き、前年の売上の61.5%、一昨年比ではわずか30.0%と深刻な状況となっている。

9月は例年、彼岸に向けて量販店の棚替えが進む時期だが、コロナの感染者数が増えるなかで、9月13日以降、緊急事態宣言・まん延防止等重点措置が解除されるのか見通しが立ち難い状況だ。量販店も密を避けるため、チラシなどで催事を大々的に打ち出し難く、需要の下支えは限定的とみられる。

コロナの感染予防のため全国レベルでさまざまな規制が敷かれるなか、とくに外食需要は、緊急事態宣言が9月13日以降、解除されるとしても、一連の相場にどこまで付いて来ることができるか不透明だ。学校給食も分散登校や短縮授業の影響が懸念される。

## ○牛肉

盆休み明け以降の末端消費は予想以上に弱く、量販店などの末端サイドも在庫を抱えている状況だ。和牛を中心にモモの荷動き・引合いが停滞している。現在は、和牛・交雑ともにブリスケなど切り落とし・小間材で動いているが、肩ロースといったスライス材の需要が本格化するの暑さが落ち着く今月下旬か10月からとみられる。

## ○豚肉

緊急事態宣言やまん延防止等重点措置が講じられるなか、9月の需要も基本的には内食需要に支えられ堅調に推移することが予想される。9月に入り、モモやウデといったスソ物の動きは鈍い半面、カタロースやロースの動きは堅調。バラも例年、動き出すのはもう少し気温が下がってからとなるが、比較的動きは良いと見通す。

## ○業態別概況

表：全農いばらき食肉センター 業態別取引先実績（令和3年7月期） 単位：千円、%

年度	J A	どきどき	給食	仲卸	食肉 専門店	量販店	飲食店	合計
令和2年7月	12,005	15,901	6,460	43,399	22,256	11,693	6,160	116,874
令和3年7月	11,550	16,221	4,922	37,321	13,516	13,203	10,410	107,143
増減	-455	320	-1,538	-5,078	-8,740	1,510	4,250	-9,731
対比	96%	102%	76%	88%	61%	113%	169%	92%

・令和2年7月の学校給食は、夏休みが短縮および後送りされた影響で7月末給食が提供されていたため、今年度は相対的に実績が下がっている。